

## 第6章 フルオンライン訓練の 検証



## 第6章 フルオンライン訓練の検証

検証訓練の実施結果を踏まえ、検証訓練開始時と終了時に訓練実施機関等を対象としたヒアリング調査結果及び受講者を対象としたアンケート調査結果に基づき、以下の3つの視点で検証を行った。

- ・視点1：フルオンライン訓練による訓練効果について
- ・視点2：フルオンライン訓練による就職支援について
- ・視点3：フルオンライン訓練特有の課題等について

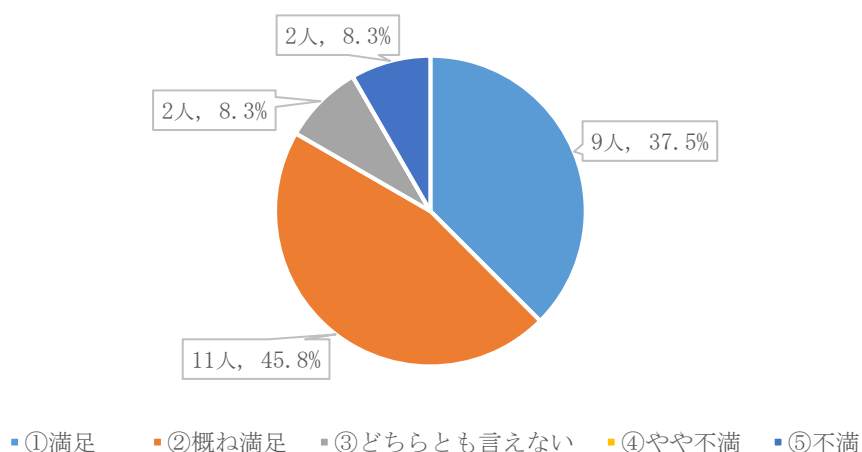
### 第1節 フルオンライン訓練による訓練効果について －受講者の満足度及び習得度より－

フルオンライン訓練における訓練効果について訓練終了後に実施した受講者アンケート調査及び訓練実施機関へのヒアリング調査を基に検証する。

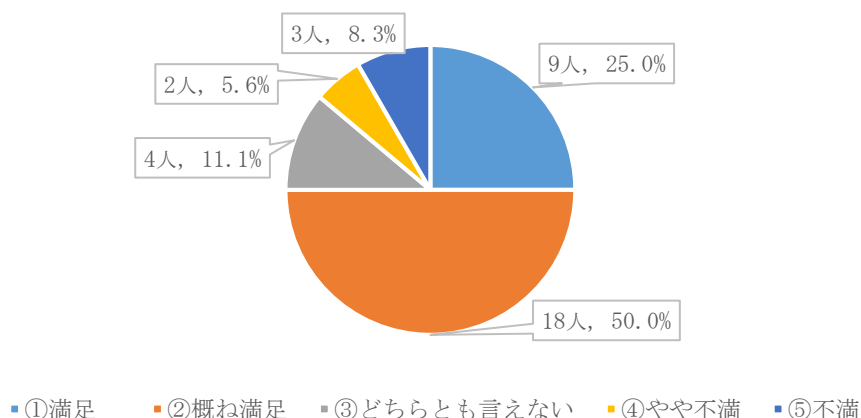
#### 1-1 サイバーセキュリティマネジメント科

第5章第1節の図表5-1「セキュリティ科」の満足度について、学科と実技にそれぞれ分けると図表6-1 学科満足度と図表6-2 実技満足度になる。どちらも概ね満足している。

図表6-1 「セキュリティ科」の学科満足度

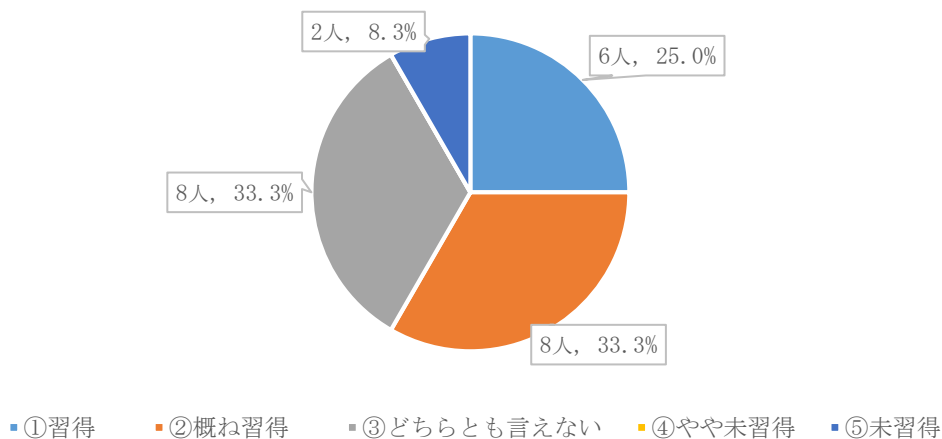


図表6-2 「セキュリティ科」の実技満足度

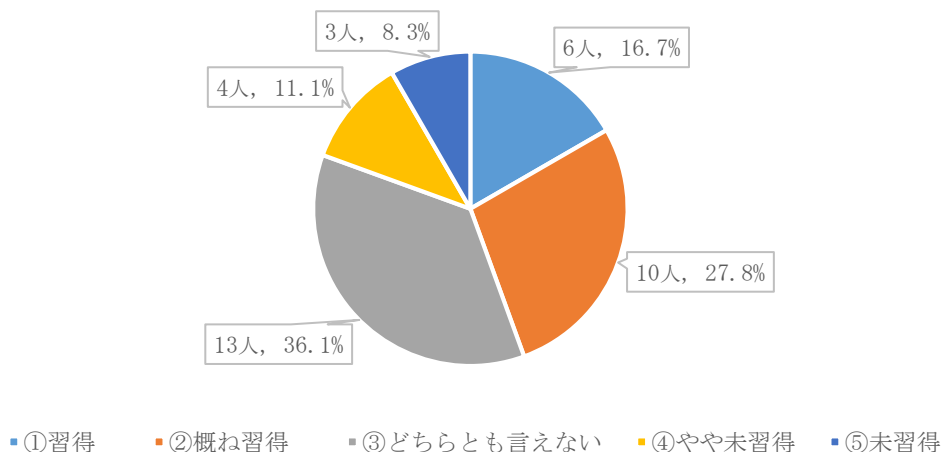


次に図表5-2「セキュリティ科」の習得度について、学科と実技にそれぞれ分けると図表6-3 学科習得度と図表6-4 実技習得度になる。学科も実技もある程度習得できたと考えられるが、「どちらとも言えない」の割合が多く出ている。中には資格試験で合格点の水準に達していても自信がないので「どちらとも言えない」と回答した者もいたが、実技の時間が足りないという意見が複数出ている。これらから実技の習得度が若干低いのは、フルオンライン訓練に起因するものではなく、訓練時間によるものと推測できる。

図表6-3 「セキュリティ科」の学科習得度



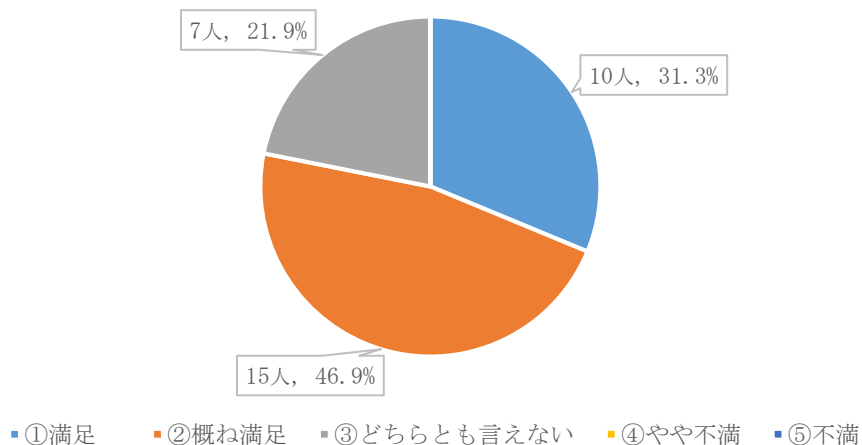
図表6-4 「セキュリティ科」の実技習得度



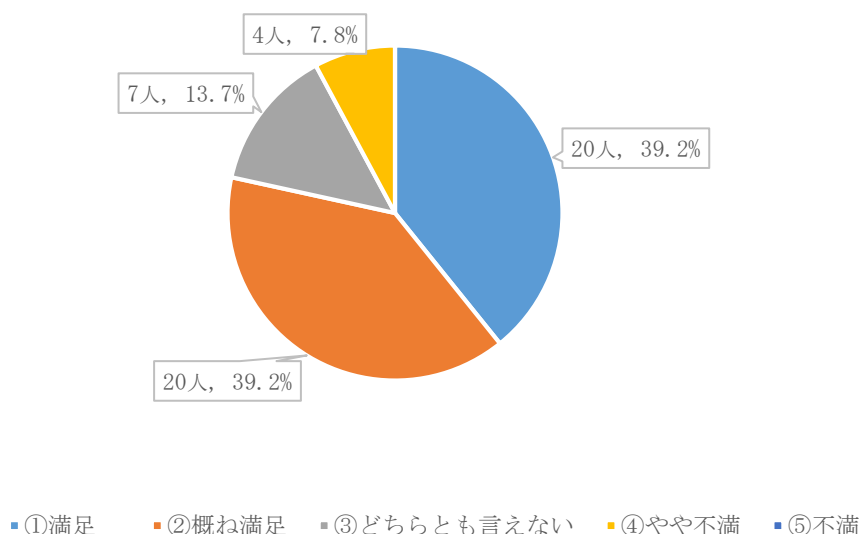
### 1-2 Web アプリプログラマー (Java 言語) 養成科

第5章第1節の図表5-3「Web アプリ科」の満足度について、学科と実技にそれぞれ分けると図表6-5 学科満足度と図表6-6 実技満足度になる。どちらも概ね満足している。

図表6-5 「Web アプリ科」の学科満足度

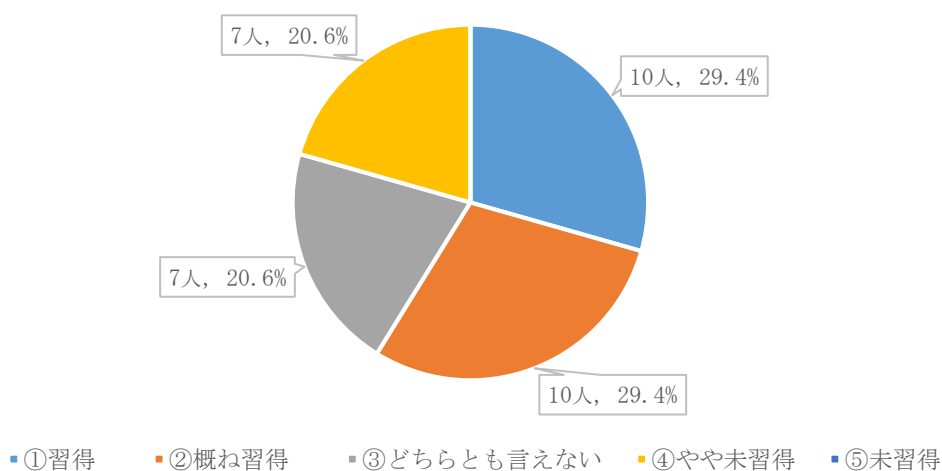


図表 6-6 「Web アプリ科」の実技満足度

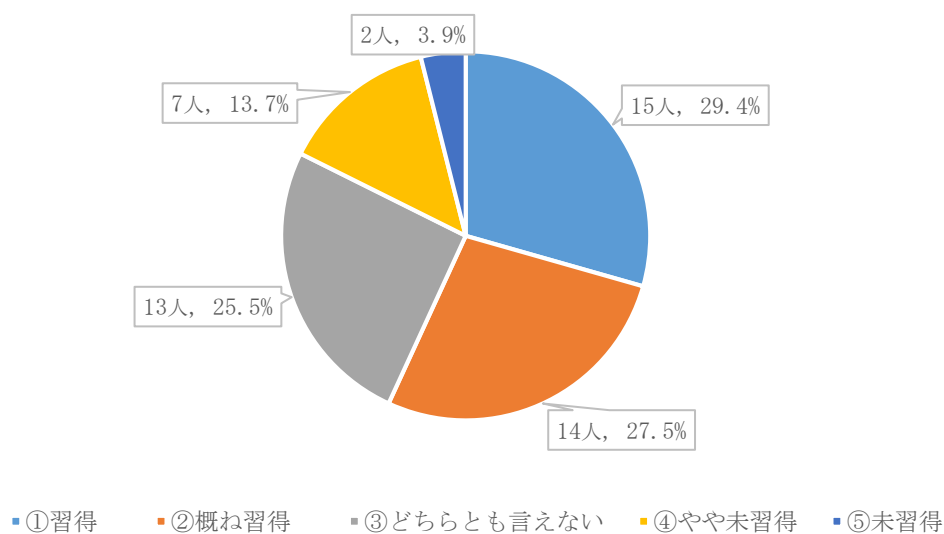


次に図表 5-4 「Web アプリ」の習得度について、学科と実技にそれぞれ分けると図表 6-7 学科習得度と図表 6-8 実技習得度になる。受講者アンケートでは学科の「やや未習得」が 20.6%、実技の「やや未習得」が 13.7%となっている。この訓練コースも一部受講者からは時間が足りなかったとの意見が出ている。限られた時間でどう教えるか、については講師にも起因するところであるが、同一内容であればもう少し訓練期間を長くすることで改善の余地がある。これらのことからフルオンライン訓練に起因するものではなく、訓練時間によるものと推測できる。

図表 6-7 「Web アプリ科」の学科習得度



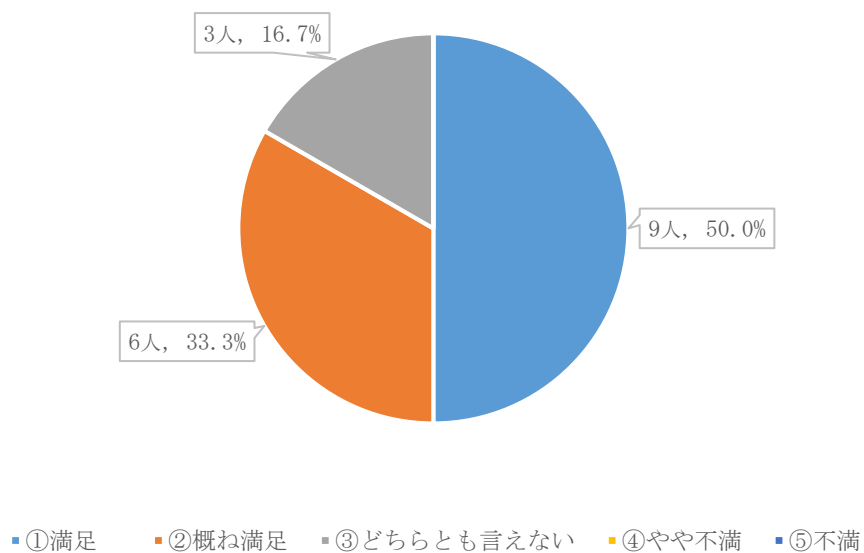
図表6-8 「Web アプリ科」の実技習得度



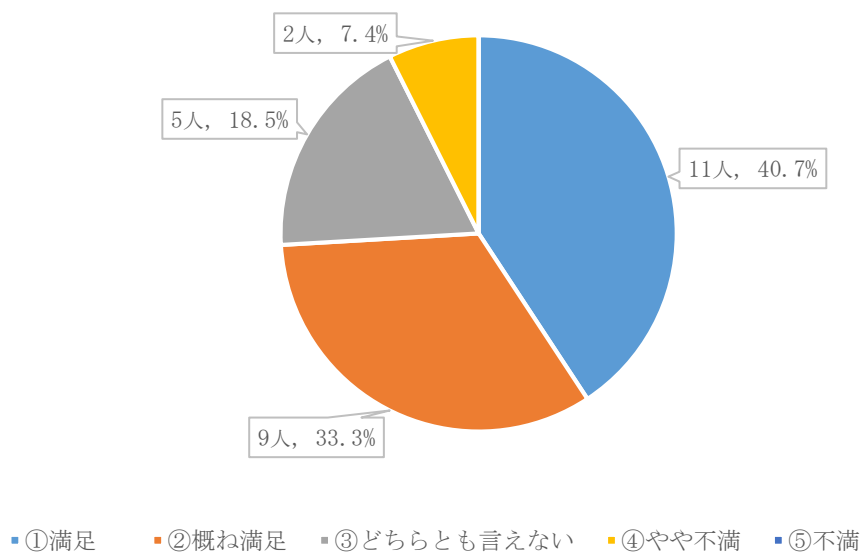
### 1-3 IT人材育成科

第5章第1節の図表5-5「IT人材の満足度について、学科と実技にそれぞれ分けると図表6-9 学科満足度と図表6-10 実技満足度になる。どちらも概ね満足している。

図表6-9 「IT人材科」の学科満足度

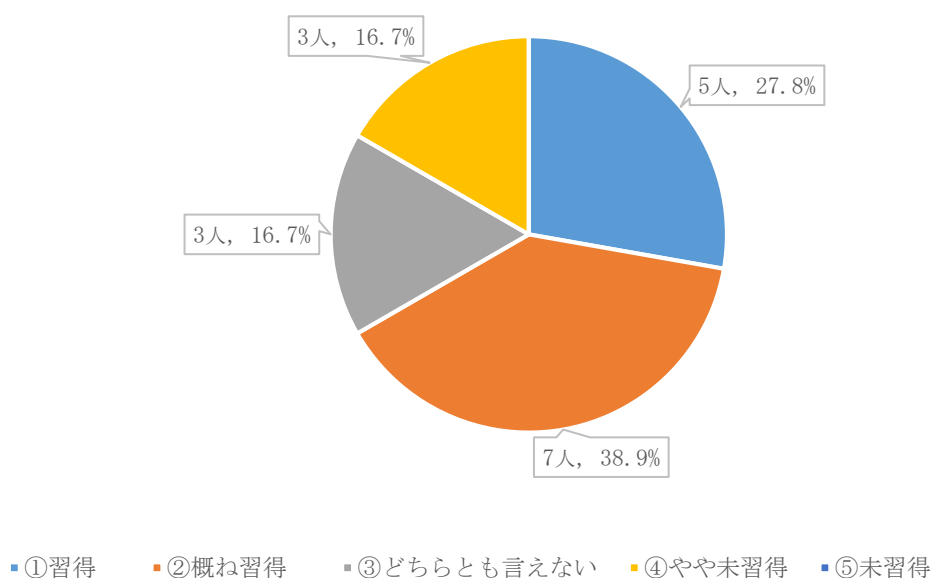


図表6-10 「IT人材科」の実技満足度



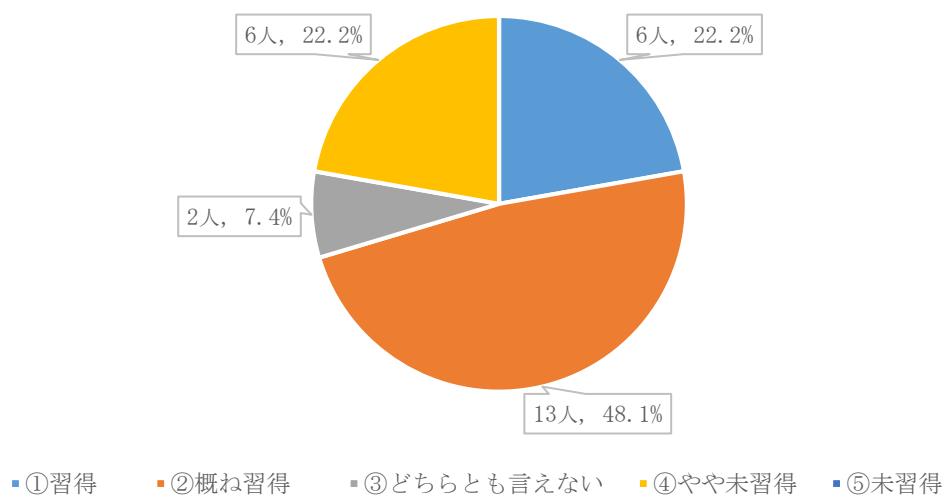
次に図表5-6「IT人材科」の習得度について、学科と実技にそれぞれ分けると図表6-11 学科習得度と図表6-12 実技習得度になる。学科、実技とも概ね習得している。実技で「やや未習得」の方がやや多く出ている。時間が短く科目によって説明が不足したところもあったようである。

図表6-11 「IT人材科」の学科習得度





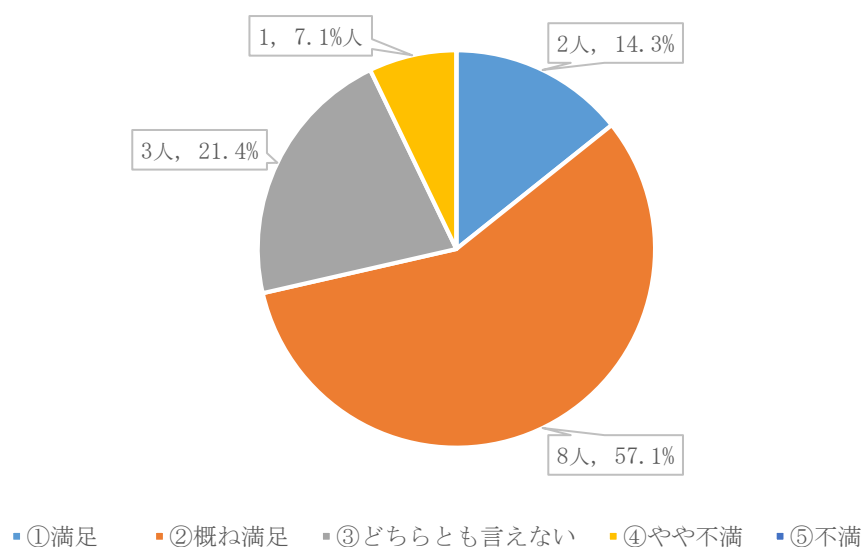
図表6-12 「IT人材科」の実技習得度



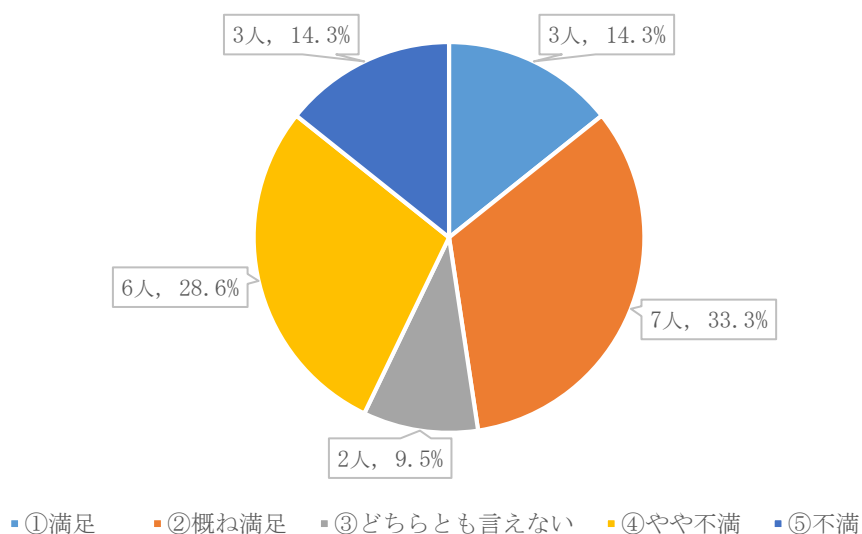
#### 1-4 IT導入リーダー養成科

第5章第1節の図表5-7「IT導入科」の満足度について、学科と実技にそれぞれ分けると図表6-13 学科満足度と図表6-14 実技満足度になる。学科は概ね満足しているが、実技が「やや不満」と「不満」を合わせて42.9%となっている。これは受講者アンケートで「難しすぎる」、「時間不足」といった意見が出ており、訓練実施機関へのヒアリングでも、詰め込みすぎたカリキュラム内容になったと認識していた。適切な訓練期間や訓練内容の検討が必要である。

図表6-13 「IT導入科」の学科満足度

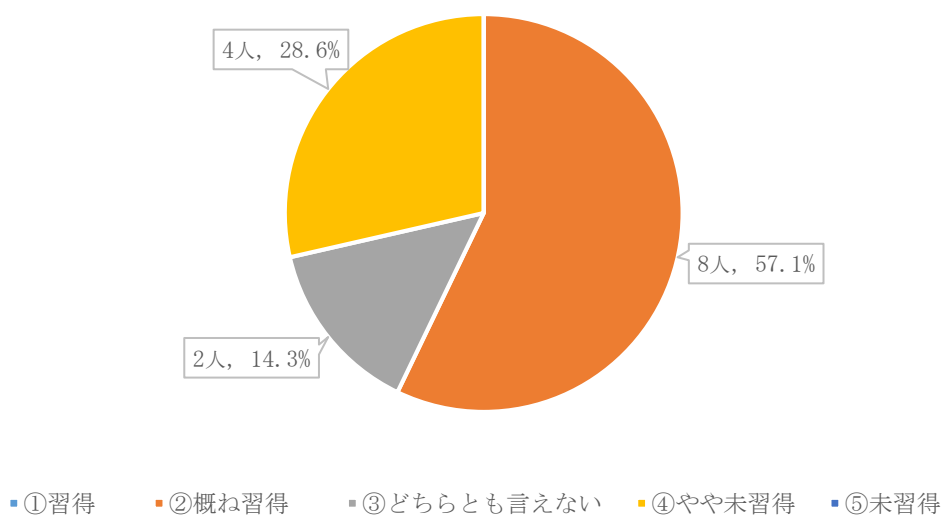


図表 6-14 「IT 導入科」の実技満足度

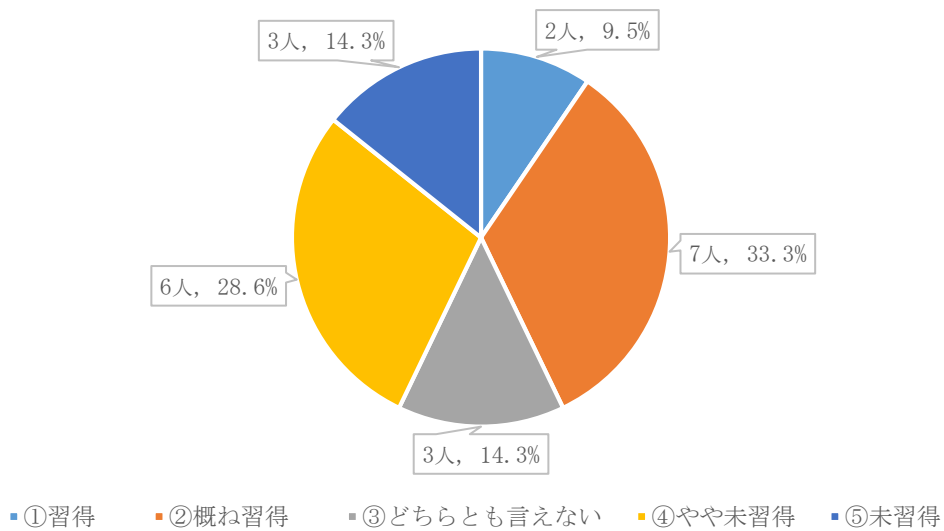


次に図表 5-8 「IT 導入科」の習得度について、学科と実技にそれぞれ分けると図表 6-15 学科習得度と図表 6-16 実技習得度になる。学科、実技とも満足度と同様に訓練時間に対して訓練内容が多すぎたことによるもので、特にフルオンライン訓練に起因したものではないと推測できる。

図表 6-15 「IT 導入科」の学科習得度



図表6-16 「IT導入科」の実技習得度

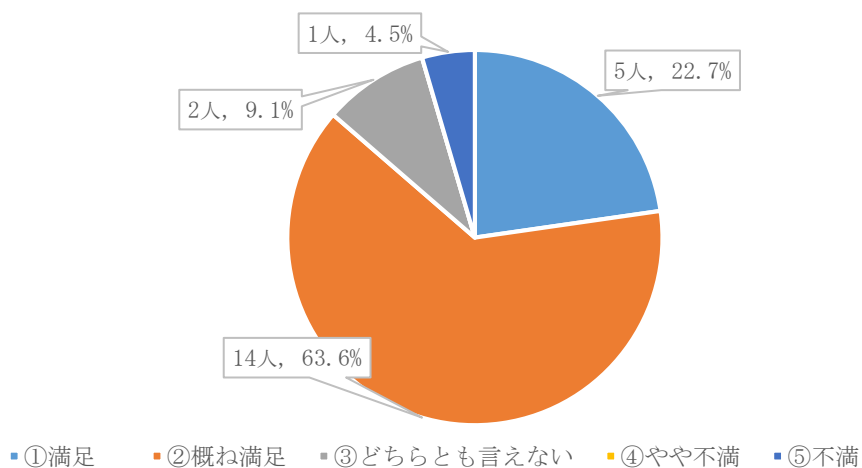


### 1-5 Webデザイナー養成科

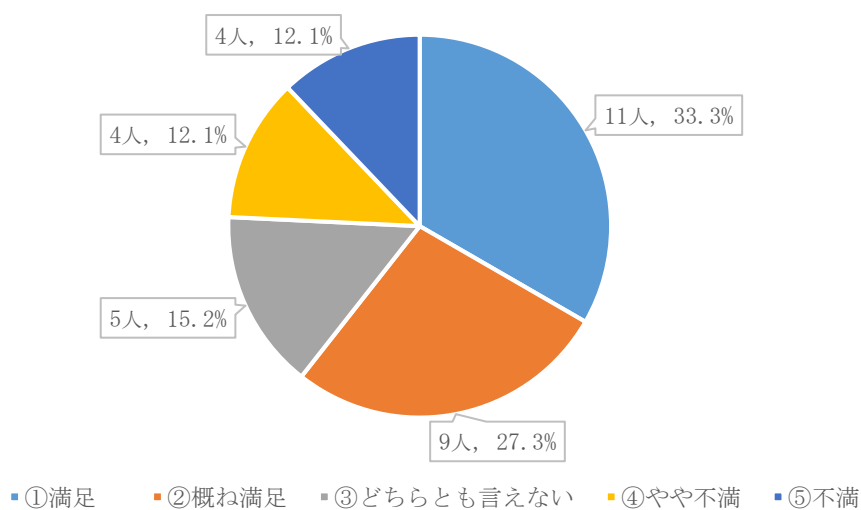
第5章第1節の図表5-9「Webデザイナー科」の満足度について、学科と実技にそれぞれ分けると図表6-17 学科満足度と図表6-18 実技満足度になる。

学科は概ね満足している。実技も「満足」と「概ね満足」が合計で60.6%ではあるが、「不満」と「やや不満」が合計24.2%となっている。これは受講者アンケートにおいて実技の一部科目で講師の説明がわかりづらいといった意見が出ていること。特にプログラミングの訓練は他の教科目と違って受講者によっては理解しがたいものであることも要因であることから、それらを含めて今後の課題である。

図表6-17 「Webデザイナー科」の学科満足度

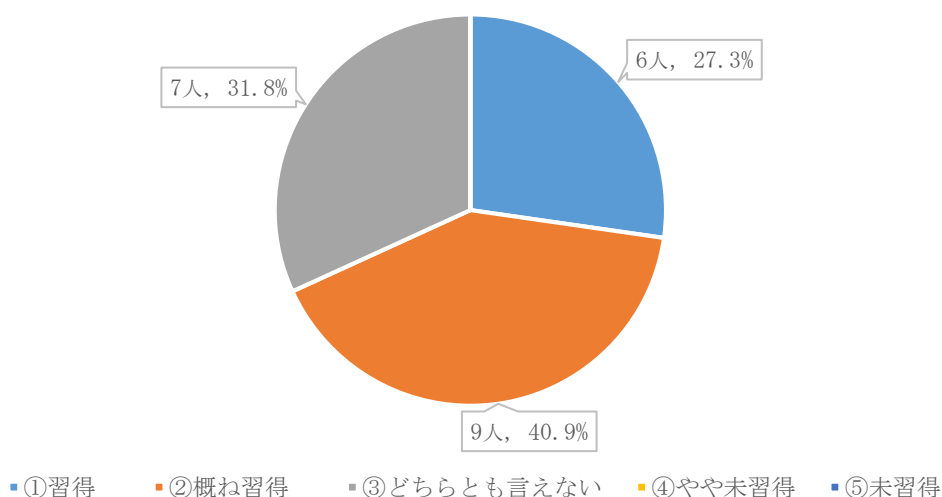


図表 6-18 「Web デザイナー科」の実技満足度

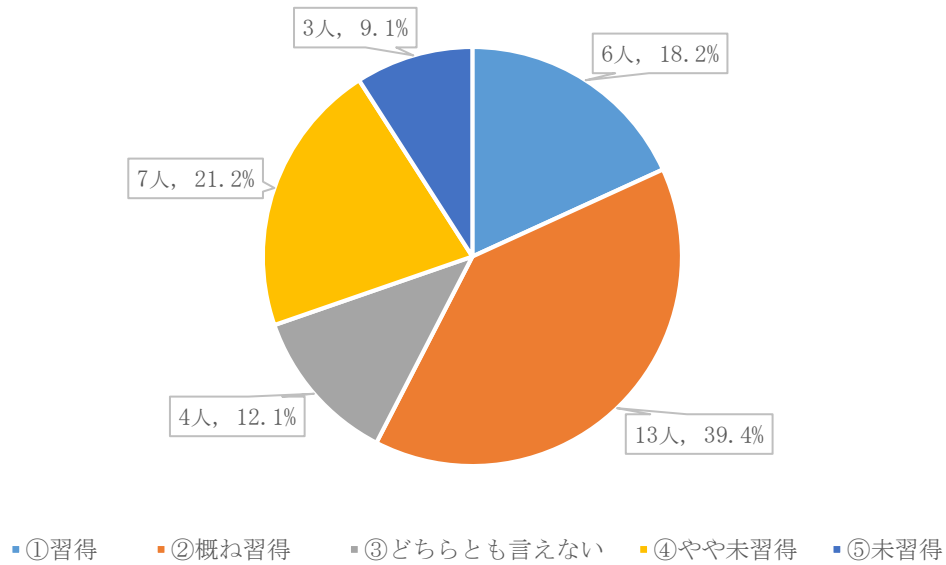


次に図表 5-10 「Web デザイナー科」の習得度について、学科と実技にそれぞれ分けると図表 6-19 学科習得度と図表 6-20 実技習得度になる。学科は概ね習得している。実技は「習得」と「概ね習得」の合計が 57.6%ではあるが、「未習得」と「やや未習得」が合計 30.3%出ている。これは先の満足度で記した要因であり、フルオンライン訓練であることが要因ではないと推測される。

図表 6-19 「Web デザイナー科」の学科習得度



図表6-20 「Web デザイナー科」の実技習得度



### 1-6 まとめ

今回5コースの検証訓練を実施して、フルオンライン訓練による訓練効果を検証した。これまで記したように、受講者からはフルオンライン訓練であることを理由とした不満や習得不足といった意見はなかった。また、訓練時間(期間)が足りないなど、一部の科目の指導の方法に対する意見はあったが、対面式訓練でも同様なことはあるため、フルオンライン訓練そのものに起因するものではないと考えられる。また、訓練実施機関は受講者の訓練効果を確保するために、モチベーション維持や集中力を切らさないよう、質問の共有、グループワークの実施、受講者間での交流の場を設けるなどしており、フルオンライン訓練も対面式訓練も差異はないと考えている。

これらの工夫も含めてフルオンライン訓練は、対面式訓練と同じように訓練効果は十分にあると考える。

## 第2節 フルオンライン訓練による就職支援について

### －就職支援の課題と対応事例－

受講者の就職に関する相談は、対面式訓練の場合、講師や就職担当者に適宜相談できるが、フルオンライン訓練の場合、限られた時間の中で日時を決めて実施する等、効率よく行う必要がある。

第5章第1節(2)「就職支援の満足度」では、図表5-11「5コース全体の就職支援満足度」にあるように「満足」と「概ね満足」は合計67.9%、「どちらとも言えない」が26.8%、「やや不満」が3.6%、「不満」が1.8%となっており、「やや不満」と「不満」の合計5.4%からすると概ね満足していると考えられる。ただし、回答者の中には、意見として「面接テクニックの秘策を教えてもらえなかった」、「受講者の居住地がバラバラだからか求人情報が無かった」などがあつた。

就職支援の習得度は、図表5-12「5コース全体の就職支援習得度」で、「習得」と「概ね習得」は合計58.2%、「どちらとも言えない」が34.5%、「やや未習得」が7.3%、「未習得」が0%となっている。習得度についてさらに詳細に分析すると、2コースの「習得」と「概ね習得」の合計は69.0%であり、この2コースについては概ね習得したと考えられる。しかし、残りの3コースについては「習得」と「概ね習得」の合計は46.2%と低い。この3コースの特徴として「どちらとも言えない」が42.3%と高くなっている。2コースと3コースの就職支援の大きな違いを比較すると、2コースはオンラインによる企業説明会を数回実施しており、内1コースは団体傘下の全国の関連事業所の求人情報を就職講話で提供していた。このような取り組みが、受講者の印象に残り反映されたものと考えられる。ただし、受講者は全国なので地域に偏った企業説明会になると受講者の参考にならないため注意が必要である。

就職支援の役立ち度は、図表5-13「5コース全体の就職支援の役立ち度」で、「大いに役立つ」と「一定役立つ」は合計71.4%、「どちらとも言えない」が16.1%、「あまり役立たない」が7.1%、「役立たない」が5.4%となっており、概ね役立っていると考えられる。

次に、キャリアコンサルティングの役立ち度は、図表5-14「5コース全体のキャリアコンサルティング役立ち度」で、「大いに役立つ」と「一定役立つ」は合計67.9%、「どちらとも言えない」が28.6%、「あまり役立たない」と「役立たない」それぞれ1.8%となっており、概ね役立っていると考えられる。

このように受講者にとって就職支援は、概ね役立っていることから、フルオンライン訓練だから十分に就職支援ができていないということはないと考えられる。

ただし、受講者の居住地が全国に点在しているため、対面式訓練のように訓練実施機関が所在する地域の求人情報の提供だけでは不足する。そこで、訓練実施機関が所在する地域以外での就職希望者に対しては、で就職活動ができるよう情報収集の方法などを指導している。

### 第3節 フルオンライン訓練特有の課題等について

#### 3-1 訓練定員及び訓練の指導を担当する者の配置

検証訓練では訓練定員は20人を標準とした。また、「委託訓練実施要項」第1章第13(2)「訓練の指導を担当する者の配置」では、「訓練内容が実技のものは15人に1人以上、学科のものは概ね30人に1人以上の配置をする事を標準する」となっているが、今回の検証訓練では、学科、実技とも20人まで1人の配置で実施できることとした。

訓練実施機関からは、自施設で実施している他のオンライン訓練の経験から定員は概ね20人～30人までが良いという意見が多く、20人あるいは22人までと限定した意見もあった。ただし、訓練定員に満たない訓練コースにあっては受講者のレベルに差があったため、レベルによってクラスを分けた方が良いという意見もあった。また、訓練内容によっては定員が多くなると質問への対応も時間がかかるので、助手が必要になるという意見があった。

受講者からは、特に受講者レベルに差があった訓練コースにおいて途中から受講者をレベル別に分けた方が良かったのかもしれないといった意見も出ていた。その他は特に要望はなかった。

これらのことを踏まえると、訓練定員20人は妥当と考える。ただし、定員以上の応募者を確保し、訓練コースの主旨や目的に合った受講者の選考ができることが望ましい。また、講師の配置は、IT分野においては、概ね20人に1人以上についても妥当であると考える。しかし、訓練を指導する者の配置については、「訓練内容が学科のものにあっては概ね30人に1人以上の配置をすること」を標準とされていることから、実技についても訓練内容による柔軟な対応を望む意見があった。

#### 3-2 書類関係の扱い

第3章第4節4-1(4)「応募から訓練開始時までの間で気になったこと(不安等)」の図表3-32「気になったこと(不安等)(全体)」で受講者からのアンケートでは、「ハローワークの受講申込書もメールが使用できるとよい」が最も多かった。

また、訓練実施機関からも受講者との受講証明書や職業訓練受講給付金の申請書類等のやり取りを書類により行ったため、郵送に日数を要し、期限間際になることも多かった。電子データでのやり取りを可能とするか、書類でのやり取りが避けられないのであれば、提出期限を延長するなどの対応が望まれた。

### 3-3 通信トラブル

また、フルオンライン訓練を行うためには継続した通信が可能であることが不可欠だが、受講者からは、「何かのトラブルで接続が途中で遮断して長時間受講できなかった」、「オンライン用ツールが作動せず受講できなかった」といった意見はなかった。訓練実施機関へのヒアリングにおいても訓練を中断するような通信障害はなかった。また、軽度のトラブルも連絡を取り合って短時間に修復している。通常訓練はオンライン用ツールで録画しており、仮に通信障害が発生しても後から録画を観ることは可能である。これらのことから、通信障害等に対する受講者の不安も、訓練開始時のアンケート(第3章第4節4-1(6)「パソコン等通信機器で不安を感じるか」)において、図表3-45「パソコン等通信機器で不安を感じるか」で、「大いに不安である」と「少し不安である」の合計は42.0%であったが、訓練終了後のアンケート(第5章第1節(13)「通信機器等への不安」)においては、図表5-27「5コース全体の通信障害等」で、「訓練が終わるまで不安であった」は8.9%に減少し、「トラブルは問題なく自分で対処できた」や「トラブルは学校からの指示で問題なく対処した」が合計67.8%になっており、実際に受講したことで、不安はある程度解消していたようだ。

ただし、通信事業者やオンライン用ツールを配信しているシステム等のトラブルや停電などの大きな障害の場合は、訓練実施機関や受講者側では対処できないことが想定される。